

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

164 学習補充教室推進事業（和歌山大学との連携協力推進事業）

[長期総合計画]

分野別目標	3	子供たちがいきいきと育つまち
政策	2	社会を生き抜き子供たちの学力の育成
施策	2	国内外の多様な分野で活躍できる人材を育む教育の推進
取組方針	2	高等教育機関の充実と連携強化

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		教育費	
	項		教育総務費	
	目		教育振興費	
	大事業		教育振興事業	
	中事業		学習補充教室推進事業（和歌山大学との連携協力推	

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	平成24年度	～	無し	
事業実施の根拠法令	和歌山市教育振興基本計画		関連課	学校教育課 前北 博文 435-1196

1 事業内容

事業目的	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）		全体事業概要			
	学習支援員活動で、学校(園)現場における子どもの基礎学力並びに体力向上及び教育活動の円滑な実施に寄与し、和歌山市の学校教育を支える人材育成を図る。		和歌山大学教育学部の連携・協力のもと、学内に「学習支援推進室」を置き、学校現場と学生それぞれのニーズを調整し、和歌山市立幼・小・中・義務・高等学校の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する事業			
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	
	「学習支援推進室」で、現場と学生のニーズを調整し、市立幼・小・中・義務・高の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣した。また本事業の協議会を年2回行った。	「学習支援推進室」で、現場と学生のニーズを調整し、市立幼・小・中・義務・高の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する。また本事業の協議会を年2回行う。	「学習支援推進室」で、現場と学生のニーズを調整し、市立幼・小・中・義務・高の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する。また本事業の協議会を年2回行う。	学校現場と学生のニーズを調整し、市立幼・小・中・義務・高の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する。また本事業の協議会を年2回行う。	学校現場と学生のニーズを調整し、市立幼・小・中・義務・高の教育現場に「学習支援員（教育ボランティア）」を派遣する。また本事業の協議会を年2回行う。	

2 事業コスト

事業費等（千円）	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	1,222	72	0	0	0	0	0	0	0	0	
伸び率（%）	△71%	△98.3%	△100%	△100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	
人件費	正規職員	8,779	8,860	9,316	9,316	12,101	12,101	12,179	12,179	0	0
	正規職員以外	2,167	0	0	0	0	0	436	436	0	0
	小計	10,946	8,860	9,316	9,316	12,101	12,101	12,615	12,615	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源（税等）	1,222	72	0	0	0	0	0	0	0	0	
所要人数 （人）	正規職員	1.09	1.10	1.17	1.17	1.56	1.56	1.57	1.57	0.00	0.00
	正規職員以外	0.95	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.19	0.19	0.00	0.00
主な予算内訳	学習補充教室推進事業委託料 1,222千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
教育ボランティア登録学生人数		人	目標値	250	250	250	250	
			実績値	151	45	76		
			達成度(%)	60.4%	18.0%	30.4%	%	%
教育ボランティア活動学生人数		人	目標値	220	220	220	220	
			実績値	151	45	76		
			達成度(%)	68.6%	20.5%	34.5%	%	%
教育ボランティア述べ派遣校（園）数		校	目標値	82	82	82	82	
			実績値	51	19	36		
			達成度(%)	62.2%	23.2%	43.9%	%	%
			目標値	2300	2300	2300	2300	
教育ボランティア延べ派遣回数		回	実績値	1715	229	600		
			達成度(%)	74.57%	10.0%	26.1%	%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)	○ 達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	事業開始に伴い、教育ボランティアの派遣校（園）数、派遣回数ともに増加傾向にあったが、平成31年度に予算が大幅に削減されたため今年度においては減少することとなった。令和2年度は、コロナ禍により、ボランティアの受入は学校（園）にとっては、難しい状態となっている。しかしながら、学校（園）に行ったアンケート調査においても、子どもたちとの豊かな心の交流ができ学校の活性化につながるという評価を受けており、ボランティアの派遣要望が多数上がっている。また、本事業は和歌山市の教員の育成にも寄与する事業でもある。
見直し・改善内容	平成31年度は、ボランティア学生と学校の調整役の学習支援指導専門員と事務補佐員の人件費が削減になり、令和2年度にいたってはさらに予算額が0円となった。現在コロナ禍により、ボランティア活動は縮小しているが、学校現場からの要望及びその必要性から、今後も事業内容が縮小することなく、派遣学校（園）でのボランティア内容の充実等について、和歌山大学と連携していく方法を検討していく。